

日 時 令和4年6月14日(火) 午前10時 開 議

出席議員 (15人)

1番	佐々木 隆	2番	黒石 ナナ子
3番	三上 廣大	5番	工藤 禎子
6番	大久保 朝泰	7番	大溝 雅昭
8番	後藤 秀憲	9番	今 大介
10番	工藤 和行	11番	工藤 俊広
12番	北山 一衛	13番	中田 博文
14番	工藤 和子	15番	村上 啓二
16番	村上 隆昭		

欠席議員 (1人)

4番 大平 陽子

出席要求による出席者職氏名

市 長	高 樋 憲	副 市 長	有 馬 喜代史
総 務 部 長	鳴 海 淳 造	企画財政部長	須 藤 勝 美
農 林 部 長 兼農業委員会事務局長併任	中 田 憲 人	商工観光部長	太 田 誠
総 務 課 長	樋 口 秀 仁	総務課参事兼 財産管理室長	藤 本 洋 平
市民環境課長	八木橋 寿	企 画 課 長	花 田 浩 一
農 林 課 長 兼バイオ技術センター所長	佐 藤 久 貴	商 工 課 長	山 口 俊 英
観 光 課 長	西 塚 啓	教 育 長	山 内 孝 行
教 育 部 長 兼市民文化会館長	村 上 靖	社会教育課長 兼黒石公民館長 兼青少年相談センター所長 兼黒石ほるぷ子ども館長	村 元 裕

会議に付した事件の題目及び議事日程

令和4年第2回黒石市議会定例会議事日程 第3号

令和4年6月14日(火) 午前10時 開 議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事務局 長 成 田 浩 基
次 長 佐々木 順 子
主幹兼総務議事係長 山 谷 成 人
主任 主 事 大 平 祥 弥

会議の顛末

午前10時00分 開 議

◎議長（佐々木隆） ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

◎議長（佐々木隆） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

8番後藤秀憲議員、12番北山一衛議員を指名いたします。

◎議長（佐々木隆） 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

通告のありました一般質問中、本日の大平陽子議員の一般質問は、体調不良のため、本人から取り下げる旨の申出がありましたので御報告いたします。

それでは、順次、質問を許します。

13番中田博文議員の登壇を求めます。13番中田博文議員。

登 壇

◎13番（中田博文） 令和4年6月定例会に当たり一般質問をさせていただきます、新自民・公明クラブの中田博文でございます。

いまだに、新型コロナウイルスは影を潜めることなく、3年目を迎えました。社会はまだまだ不安な世界です。早く普通の世界に戻ることを願うだけです。

今年は参議院選挙の年で、6月22日公示、7月10日投票日です。黒石の市長選も7月10日です。今、.....をしていますが、大方は「何の選挙ですか」と参議院選挙があることを知りません。市長選挙もあるんですよと言うと、「どうせ市長選挙はないでしょう」と返ってくるのです。当市は、市長選挙を過去3回、県議会議員選挙は過去5回無風、市民にとっては首長を選ぶ選択肢はないのであります。よって、政治に参画している気持ちがないと思う市民が多いのだと思います。的確な言葉かどうかは分かりませんが、黒石市民は政治困窮者なのではないでしょうか。

それでは、質問に入らせていただきます。

初めは、農業行政についてであります。

1点目は、市民農園の現状と今後についてであります。知人から畑をちょっとだけやってみ

たい、どこかないかとの問いに、市でやっている市民農園100平米、約30坪、年間1000円、聞きに行ってみるといいよと教えました。市民農園は昨年と違い広がっていたので、歩いて区画を数えたところ26区画あり、5区画増えていたので、担当に尋ねたところ、40件くらいの間合せがあり、区画を増やしたとのこと。ロコミもあってか、関心者が増えていることは良策と感じます。野菜作りは、頻繁に水をやったり大変です。しかし、成長を見るに充実感を味わっているものと思います。開園した当時は、何、今頃と陰口をたたかれましたが、市民に喜ばれる施策はどんどんやってほしいと思います。

そこで、市民農園についての現状はどのようになっているのかと、今後どのようにして拡張を進められるのか、計画があればお願いします。

2つ目は、果樹ブランド化の現状と今後の取組についてであります。これらの問題は、今までも取り上げていますので、要点のみでお願いいたします。

まずは、市民農園近くでのシャインマスカットの試作の状況、普及、成果はあるのか。

次は、黒森のワイン用ブドウの試作による普及と成果です。

3つ目は、伝承工芸館裏手圃場の試作はどのようになっている、どのように拡張を進められるのか、草案・計画がありますればお伺いいたします。

2番目は、観光行政についてであります。

令和2年、令和3年、今年で足かけ3年、新型コロナウイルスの影響で人々の心はがんにがらめ。人々は外に出ない、人の集まるところに行かないという状況から、観光地は疲弊し、売上げは減少。特に、津軽伝承工芸館は職員を解雇、営業面では縮小を余儀なくされる状況と聞き及んでおります。しかし、5月末日から、新型コロナウイルスの緩和策が施行された効果の現れなのか、徐々に観光客が戻ってきつつあるというふうに見えます。しかし、このまま自然の成り行きを見守るしかないというもどかしさを感じざるを得ません。

今までも同じような質問・提言をしております。答弁は、各施設委託金をもって頑張ってもらうしかないとのこと。私の願いは、さらなる支援をしていただきたいということです。答弁は少々冷たいと思っております。コロナ禍は数年に及び、環境は常に変化をしています。もっと施設の方々にやる気を持っていただきたく、策を講じていただきたいということです。見解を求めます。

また、津軽こみせ駅、津軽伝承工芸館、松の湯交流館のコロナ禍になってからの経営の動向と入込数の報告を求めます。

3番目は、市の指定ごみ袋の価格についてであります。

当市は、ごみ袋が県内で一番高い。13年間で5億4000万円の差益があるが、ごみ対策費に活用させてもらっているとのこと。ごみ袋の価格については、令和8年の8市町村の広域化の時

期に他の自治体の動向を見て検討したいと答えております。そこで私の提言ですが、同じ広域の中でごみ袋の価格が違うことに私は矛盾を感じます。できるならば、8自治体同一であっていただきたい。広域化の際は、あまり差のないような考えを提案していただきたいと存じます。私の言いたいことは、不平等感をつくってほしくないということであります。市長の所見を賜りたいと存じます。また、時間がまだまだありますので、再度この件に関しては、市民の声を聞いていただきたいと存じますがいかがでしょうか。

最後の質問は、市長の政治姿勢についてであります。

まず、市長2期8年の成果をお尋ねいたします。7月17日をもって市長の任期満了、あと僅かです。約20年前、みのもんたの番組で、北海道夕張市に次ぐ赤字再建団体転落予備軍、青森県黒石市と報道され、前市長を先頭に、市を挙げて借金返済が大命題との考えから、市民文化会館の休館、中郷小学校、黒石小学校、東英中学校の改築は一時棚上げ、市長の給料カットを皮切りに、他の特別職のカット、まだまだ足りず職員の給与カットをしたり、経常経費を1割切り詰めたり、ありとあらゆる手段を講じ節約をしたのであります。一時、庁舎は節電のため暗く、また危険極まる旧大黒デパートの解体は、議題に上るも打開策は出ないまま市民のニーズに応えることもできず、NHKのおしんのごとく辛抱辛抱。市の財政は四苦八苦。財源が不足し、やむなく純金こけし、純銀こけしを約2億円で売却せざるを得なかったのであります。市民は、たったの2億円が欲しくてとわびしい気持ちになったのであります。当市は約20年近く、暗い、元気のない時代が続いたのであります。

しかし8年前、高樋市長が誕生し、財政はまだまだ苦しいのですが、若干好転したことを機に、財政上やれるものから課題をクリアしてきたのであります。実質公債費比率も当たり前の状況になり、当市にとっては大規模な黒石小学校の建設、スクールバスの導入、小・中学校にエアコンの常設、ゼロ歳から中学生までの医療費無償化実施、長きの間解決されなかった複数の老朽化の児童館の新築・改築、空き校舎の活用並びに整理も一応めどが立ち、旧大黒デパートの解体も決着を見、50年前からの市民の切望である図書館の建設、小学校での給食の実施も実現したのであります。歴代の市長がやり遂げたくとも実現できなかった数々の事業を達成されたことには目を見張るものがあります。さらには、手話言語条例の制定、健康都市宣言を打ち出しています。市長の英知と決断には、敬意を表するとともに敬服するところであります。よって、市長2期8年はどのような思いと成果があったのか所見を賜りたいと存じます。

また、市街地活性化事業は、市長が衰退しつつある町並みに活気を取り戻したいとの思いから立ち上げた事業です。今年は実施設計、入札、建設と進める（仮称）市民サービス施設がこれからです。市長としては道半ばです。どのようなお気持ちか併せてお尋ねいたします。

小さな2つ目は、市民文化会館の再開についてであります。

高樋市長2期8年の間に、市長から市民文化会館の再開のことに触れることは一切なかったと記憶をしております。議会での質問や会合などで質問があった場合、コメントはしても具体的な指針は示されず、重点事業や協議事項にも入っていないのであります。休館してから早いもので15年を経過しようとしている今日、議員からも市民からも諦め感からか、再開の声はあまり聞かれませんが、平成28年には約8億円の改修費が必要、今になると改修費は増えているものと思います。人口減少に伴い、市民文化会館の利用度、必要性は薄らいでいるのかもしれませんが、ましてや、これから建設される（仮称）市民サービス施設の中に300人収容できる多目的のホールを造り、そこで発表会や会議、催事が可能という説明がありました。よって、市民文化会館の再開の是非を考える時期が来たのかと思います。高樋市長には英断をもってあくまでも再開できる時期を待つのか、老朽化が進んでいるので再開を断念するのか、市にとっても市民にとっても大きな、大きな問題です。所見を賜りたいと存じます。

以上をもちまして、壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

（拍手）

降壇

◎議長（佐々木隆） 理事者の答弁を求めます。市長。

◎市長（高樋憲） 中田博文議員にお答えいたします。私からは、私の政治姿勢についての中の、2期8年の成果と市民文化会館の再開について答弁させていただきます。

2014年7月18日に黒石市長に就任以降、「元気な黒石」、「安心な黒石」、「自立した黒石」を大きな柱としてこれまで2期8年間、「誇れる故郷くろいし」を目標に、理想を後回しにすることなく邁進してまいりました。

「元気な黒石」では、市民が学び、文化に親しむ場を提供するため、市立図書館整備に着手し、市制施行日の7月1日にオープンする運びとなりました。また、東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略を策定し、令和2年3月に紅屋商事株式会社が竣工以降、全体で6社から申込みがあり、既に3社が操業を開始しております。さらには、インターチェンジ周辺の民地にも関連企業が進出するなど広がりを見せており、当初の計画以上の成果が現れております。

「安心な黒石」では、黒石市子育て世代包括支援センターを開設し、妊娠や出産をはじめ、子育てへの不安や悩みを抱えているお母さんの相談に応じるなど、きめ細やかな支援を実施いたしました。また、耐震診断の結果を受け、市庁舎の軽量化と円滑な避難を図るため、建設部を境松庁舎に、教育委員会を黒石公民館に移転するとともに、黒石公民館多目的ホールを再開し、申告会場や各種催物に開放するなど、市民が安心して来庁できる施設整備に努めてまいりました。

「自立した黒石」では、市民参加型の市政を進めるため、各地区懇談会を開催し、市長への

手紙や地区要望などと併せて市民の生の声を聞きながら市政運営に取り入れてまいりました。さらには、農業政策に特に注力し、黒石産の安全・安心で高品質な農産物や加工品の生産を推進したほか、国内のみならず海外販路に目を向け、輸出促進を図る取組を進めてまいりました。

また、黒石市中心市街地活性化基本計画につきましては、平成31年に作成してから3年が経過し、旧大黒デパートの解体やこみせ通りの無電柱化、道路の美装化などに取り組んだことで、ハード面の整備はある程度の道筋が見えてまいりました。今後はソフト事業として、空き店舗減少に向けた新規出店数の増加や、コロナ禍により停滞した各種祭りやイベントに活気を取り戻すための政策に取り組む必要があると考えております。

市民文化会館に関しましては、これまで再開を前提に必要な最低限の範囲で施設の維持管理を行ってきたところです。再開につきましては、議員も御存じのとおり、多額の改修費が見込まれること、また、現在、（仮称）市民サービス施設や市庁舎の整備などに順次取り組んでいるところでもありますので、今後予想される市の人口減少や財政状況なども踏まえながら、市民をはじめ、議員の皆様方と議論を深めてまいりたいと考えております。

私は、この8年間で市民の皆様にとって100%満足いくものとは思っておりませんが、理想を後回しせず、できることから取り組むことができましたものと自負いたしております。これも市民をはじめ、市議会議員の皆様並びに職員の支えがあったからこそであると考えております。今後も与えられた職責に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 私からは、市指定ごみ袋の価格についてにお答えさせていただきます。

津軽地域ごみ処理広域化協議会構成8市町村の中で、家庭ごみ有料化制度を導入している市町村は、平川市、板柳町、大鰐町、これに当市を含めた4自治体で、燃やせるごみの市指定ごみ袋45リットル1枚当たりの価格は当市が60円、平川市が30円、板柳町が15円、大鰐町が47円となっております。ほかの4市町村は家庭ごみ有料化は実施しておりませんが、黒石地区清掃施設組合が指定したごみ袋での排出を求めている自治体が、藤崎町の常盤地区と田舎館村の2町村で、燃やせるごみ指定袋40リットル1枚当たりの市場価格は約11円となっております。

弘前市、藤崎町の藤崎地区、並びに西目屋村では、半透明の袋を使用した排出を求めているのみであり、ごみ袋のメーカーや販売店によって価格はまちまちですが、40リットル1枚当たり約10円前後のものが使用されている模様でございます。

このように、当市の市指定ごみ袋の価格が他の構成市町村に比べて高いことは認識してございます。津軽地域ごみ処理広域化の際には、これらの現状及び構成市町村の動向を踏まえまして、今後とも市民の皆様の声に耳を傾けながら、負担が少なくなるよう検討してまいります。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 私からは、農業行政についての市民農園の現状と今後について、果樹ブランド化の現状と今後の取組についてお答えします。

初めに、市民農園ですが、令和元年度に黒石コミュニティファームの名称で開園した市民農園は、食農教育や地産地消の推進、新たなコミュニティー形成とにぎわいの場を創出することを目的に実施しました。

内容としては、1区画当たり年額1000円の利用料で、約100平方メートルの圃場を5月から11月までの期間利用できます。当初20区画からスタートしましたが、年々知名度が高まり、今年度は上限の26区画を大きく上回る40件の申込みがあり、初めて抽選で利用者を決定しました。

利用者の声を聴くと、土の状態も水はけも申し分なく、野菜の栽培に適しているなど大変好評であります。来年度以降は、より多くの市民の方が利用できるよう40区画に拡大する予定であり、引き続き市の広報紙やホームページで周知してまいります。

次に、本市が取り組む特産果樹のブランド化の現状と今後の目標であります。まず、境松地区のシャインマスカットについてお答えします。

こちらは展示圃として植栽後4年目を迎え、その間、圃場の整備や先進農業者の指導により事業実施者の栽培に関する知識や圃場の生育も順調に成熟しており、今年度から通常出荷できる体制が整っております。

今後の取組につきましては、生産拡大を効果的に進め、産地直送通販サイトでの販売や海外への輸出も視野に入れて、事業実施者の所得向上と新たな産地として全国に発信していきたいと考えております。参考までに、本市のシャインマスカットの栽培面積は、中南地域で最も多い1.5ヘクタールとなっております。

次に、醸造用ブドウであります。黒森地区の圃場は、地域おこし協力隊員が近隣で営農しているブドウ生産者からの指導を受けて生産管理を行っております。昨年度は、鳥獣や蜂の食害により収穫量が半減しましたが、収穫したブドウを独立行政法人青森県産業技術センター弘前工業研究所において試験的に醸造しました。今後は、鳥獣対策を万全にして収穫量を確保してまいります。

今年度は、地域おこし協力隊員がその任期を7月で満了し、新規就農者として豊岡地区の圃場を中心に醸造用ブドウの栽培に取り組む計画であることから、今後も事業実現に向けてサポートを行ってまいります。

最後に、くろいし果樹の郷についてであります。こちらは津軽伝承工芸館南側に隣接する遊休農地に特産果樹の圃場を整備し、農観連携の活性化に取り組んでいる事業となっております。

令和3年度までにシャインマスカットのほか、全国的にも流通が少なく高値取引が期待できるブドウ2品種を植栽しております。

また、今年度から独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所の指導を受けながら、本市が推進する農産物である黄美香メロンの新たな生産方法にも取り組んでおります。これは、農業用ハウス内で土を使わず、小さな軽石にメロンの苗を植栽し、養分を水に溶かした養液で栽培するものです。温度管理やかん水管理が非常に難しく、高度な栽培管理が必要と言われておりますが、新たなブランド化や所得向上の達成につながるよう、栽培技術の確立に一歩ずつ前進してまいります。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 私からは、観光行政について、津軽こみせ駅、津軽伝承工芸館、松の湯交流館への支援についての、やる気を持てる支援策と経営動向と入込数についてお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し始めた令和2年から現在まで、各指定管理者には新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組みながら、随時、市と必要な協議を行い観光拠点施設としての役割を担っていただいております。

国をはじめ、県及び市では、新型コロナウイルス感染症に対応する様々な事業者支援や経済対策事業を実施していますので、指定管理者に限定することなく市内事業者という幅広の枠の中で、国が実施する事業復活支援金や市が実施する黒石市事業復活支援金による支援を受けたり、また経済対策事業に出店者として参画するなど、自らも経営努力を行っていただきながら各種事業を活用して、指定管理者としての獨創性と活力ある管理運営を期待したいと思います。

そのほか、がんばろう黒石！マッコ事業では、津軽こみせ駅、津軽伝承工芸館の製作工房や売店、レストラン、松の湯交流館、十文字カフェから、それぞれマッコとしての賞品を購入したほか、津軽伝承工芸館のホールを借用してマッコの賞品を詰める会場として使用したりと、一例で紹介した本事業以外にも市内事業者から積極的に物品を購入したり、施設を活用するよう努めており、今後も市として可能な範囲で支援を継続してまいりたいと考えております。

次に、津軽こみせ駅及び津軽伝承工芸館並びに松の湯交流館の経営動向と入込数ですが、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の実績を起点に、令和2年度及び令和3年度の実績を比較します。

まず、津軽こみせ駅の経営動向は、売上額の比較となりますが、令和2年度は約19%の減少、令和3年度は約36%減少し、入込数は、レジカウントになりますが、令和2年度は約48%減少、令和3年度は約52%減少しております。

次に、津軽伝承工芸館の売上げは、令和2年度は約66%の減少、令和3年度も約66%の減少、入込数は、令和2年度は約68%減少し、令和3年度は約62%減少しております。

次に、松の湯交流館の売上額は、令和2年度は約25%の減少、令和3年度は約1%増加し、入込数は令和2年度は約36%の減少、令和3年度は約35%減少しております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（佐々木隆） 再質問を許します。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 市民農園についてお尋ねいたします。

今答弁を聞いたら、今年度は抽選ということでありましてけれども、来年度、40区画の準備をするということでありましてけれども、担当課は準備するに当たって、簡単にできるものなのか、結構手間暇や費用がかかるのかちょっとお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 今現在、26区画あるのが市道に面している場所であります。その南側にもこれまでの圃場として、旧農地と圃場として使われている部分がありますので、例えば春先に2度、3度トラクターで耕起すれば十分市民農園として使えるような圃場として造れると思いますので、担当課としてはさほど負担にならずに造れると認識しております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 私、市民農園を立上げるときからですね、ある程度大きい規模の——将来的にはいろいろな方々が見に行きたいという整備をしていただければ将来的にはいいのかなということで、年々増えていって来年は40区画と。作っている人たちは、ロコミでこういうものをやっているよということで、さらに拡大していく可能性があると思いますので、どんどんPRしながら——市民の方々に喜んでやっていただくということはすごくいい事業だと思っておりますので、どれくらいの規模まで将来的には持っていけるかということの可能性を含めて、もし分かればお願いいたします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 今年度の申込み40件、令和5年度にまずは40区画にしてですね、その利用者の状況、それらも確認しながら計画してまいりたいと思います。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） よろしくお願ひいたします。

次に、シャインマスカットなんですけれども、前の答弁でいくと、1反歩当たり150万円の収入になるということでもあります。今現在もそういう収入になるのかどうかお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） シャインマスカットの単価としては、市場価格として、かなり生産量が増えているんですが、価格としては現在も保たれていることから、以前答弁したとおり、1反歩当たりの収量でいくとそのくらいになると認識しております。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 本来の目的だと、その試作、指導をしながら、数多くの方々にまずやっていただくというためのお手本的なものでやるという説明であったのでありますけれども、普及的なものというのほどのようになっているのかお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 先ほど答弁したとおり、黒石市のシャインマスカットの栽培面積は、3年前1ヘクタール、そのときも中南で一番だったんですが、その後も順調に増え続けて、農林課に相談に来る方もシャインマスカットをやってみたいという方も多くありまして、今、境松の圃場、先進農家の方に指導してもらって非常にうまく栽培もできている状況なので、そういうところも宣伝しながら、また当初説明したとおり、海外も視野に入れて、テスト的に輸出も検討してまいりたいと考えております。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） そうすれば、そこで栽培している以外は作っている人がいないという認識でいいんでしょうか、それとも何人かは作っているんでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） シャインマスカットは、市で把握しているのが、現在11名の方が栽培しており、合計の面積が1.5ヘクタール、生産量が21トン収穫されるというふうに見込んでおります。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 可能性とすれば、まだまだ増える可能性があるのかどうか、感じとしていかがでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 農業者の方にとって、当然収入が魅力的であれば、シャインマスカットの栽培に——例えばりんご農家、水稻農家の方が転換していくとか

そういうのは見込めますので、本市としては、シャインマスカットを推進作物として進めてまいりたいと考えております。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 次に、ワイン用のブドウなんでありませけれども、当初の説明だと、山間部の遊休地をうまく使ってですね、使われていないような土地にそのブドウ栽培を奨励していきたいという、そういう流れがどういうふうになっているかということでお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 山間部に、醸造用のワインを実証圃として取り組んでまだ4年目ぐらいなんですありますが、実際、ワインにするためのブドウの成熟というのが、植栽してから大体10年近くかかるというのもあって、今年辺りワインにしてみましたんですが、やはりまだちょっと渋い、熟度がまだ増していないというところもあります。ただ全国的には、ワイン用のブドウの苗木がなかなか手に入りづらいというのを聞いておりますし、まだまだそのブドウが足りないということも聞いております。

今、当市の地域おこし協力隊の方は、弘前市のワイン醸造している方とも一緒に取り組んでいまして、ワインの醸造だけでなく、ブドウの生産のところもお互い情報交換しながらやっていますので、今、豊岡の圃場のほうを中心にやっていますが、本市としては、当初例えばりんご園が遊休農地化した、そういうときの代替えとして醸造用ブドウを進めたいという考えもあります。ただそれには、ある程度の年数がかかるというふうに認識しています。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） そうすれば、ワイン用のブドウというのはまだまだ時間がかかるということでもあります。何とか、そこから出来たおいしいワインを飲みたいと思いますので、時間はかかると思いますが、こつこつと応援をしていただきたいと思います。

それと、津軽伝承工芸館の裏のほうの果樹の郷ですか。このものを、前に説明を聞いたときは観光的なものにもしていきたいというような説明があったんですけども、その進捗というものをどのように考えているかをお尋ねいたします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 果樹の郷の取組ではありますが、今、シャインマスカットが12本、それからスカーレットという品種とBKシードレスという品種が6本ずつ、計20本のブドウを植栽しております。まだ苗木から1年目の状態ですので、年数がたって収穫できるようになれば、観光的に開放するですとか、そういうふうな取組をしていくのと、それから、黄美香メロンのほうも、実験的にその場所で、ハウスの中で栽培ということで実証を

今年から取り組みました。うまくいけば、ハウスの特性を活用して年2回収穫できるとか、そういうふうなハウスの活用ができればというふうに取り組んでいきたいと思っています。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 果樹の郷も、まだまだ時間が結構かかるということの認識で、頑張りたいと思います。

次に、2番の観光行政でありますけれども、売上げとか入込数等を聞いているとですね、物すごい数、それと減収ということで、それぞれの施設は大変だなということを素人目でも感じるのでありますけれども、私が今まで何回も質問しているのは、さらなる支援策を何かできないのかという懇願的なお願いであります。何かありますか。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 取組といたしまして、先ほど御紹介しました取組もございますが、市では、令和2年度以降、毎年、多くの新型コロナウイルス感染対応経済対策事業を実施していますが、令和2年度に心に響く広告戦略推進事業及び観光魅力発信事業で制作しました「ユルリユルリ黒石市」のテレビCMを、令和4年1月から2月にかけて秋田・岩手の両県で放送した結果として、令和4年のゴールデンウィークには秋田・岩手を含む他県からの観光客が増えるなど、事業効果が見えてきております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が薄れつつある現状もありますので、令和4年に入ってから少しずつ観光客等の人の流れが市内に戻りつつあります。市による積極的な活用と対外的なPR活動を継続して行うことで、経営動向や入込数も今後好転していくものと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） なかなか手だて、支援というのはないかも分かりませんが、そこで一緒になってですね、話合い、意見交換しながら、もっと突っ込んだ形で、行政担当のほうで何かを考案していただきたいと思いますが、何か新しい部長さんですので、何かいい決意的な案とかあればお願いします。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） さらに誘客に向けたものを指定管理者と共に協議して進めてまいりたいと思います。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 本当に、コロナ禍でこういう問題というのは行政も大変だと思います。私個人でも、たまに売上げに協力したいということで、津軽伝承工芸館に御飯を食べに行ったりしているんですけども、やはり、おとし、去年というのは悲惨だったと思います。今年やっとお客さんが見えるかなという感じでありますけれども、働いている人たちを見ると、やはり元気がありません。忙しい中での疲れ切ったような感じであればいいんですけども、お客さんが来ないから覇気がないということを見るとき、もっと行政が何かしてあげられないのかな、私たちでも何か応援できないのかなということになると、売上げ協力ぐらいしかないということであります。もっと行政でも、催物を持っていきながら、感染防止をしっかりとやって売上げ協力というものをさせていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 売上げということですが、先ほども答弁いたしました、国・県、そして市が、各種支援金の給付や補助金の交付を行っておりますので、積極的に活用していただくとともに、指定管理者と共に誘客につながる取組を継続して実施してまいりたいと思っております。

また、業務につきましても、簡素化・効率化による経費の削減への助言などを通して、お互いにいい方向へ行くように進めてまいりたいと思っております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 何とか応援よろしくお願ひいたします。

次に、3番目の市の指定ごみ袋についてでありますけれども、答弁漏れということで何も言わなかったのでありますけれども、市民のごみ袋の有料化ということで、まだまだ広域化には年月がございますので、市民の声を何かの場面で聞くということを考えていただきたいということを述べておりますので、何かそれに対するコメントがあればお願ひいたします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 市民の意見を聞くということで、特にアンテナを多く広げて聞こうという、耳を傾けていきたいということでございます。これといってアンケートを取るとかそういうことまでは考えてございません。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 別に幅広くしなくても、婦人会とか単一的な何かあるときに担当が行って意見を聞く、空気を吸収してくるということをやっていたらいいと思っておりますので、そこをよろしくお願ひいたします。

それと、先ほど、8市町村の4自治体のごみ袋の単価を聞いていたら、平均的なものを持っ

ていくと誰しも違和感がないのではないかと思うんですけれども、やはり黒石市はごみ袋が高いという認識には変わらないので、広域化のとき、やはり全体を網羅しながら、うまくそちらのほうに持って行っていただきたいと思いたすけれども、もう一度お願いいたします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 広域化の際には、先ほども述べたとおり、構成市町村の動向を参考にしながら価格を決めていきたいと思いたす。価格もそうですけれども、ごみの分別が大事だと思っております。分別することによってごみ袋も大分少なく、ごみ袋の負担が少なくなっていくものだと思っております。リサイクルに出せばそれだけ燃えるごみ袋、燃やせないごみ袋を使う分が少なくなってくると思いたすので、その辺、先ほど婦人会とかということを議員がおっしゃっていましたが、そういったところをPRもしていかなければならないと思っております。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 最近、テレビを見ていたら、ちょうどごみ袋のことで、北海道室蘭市がたまたま報道されていて、ごみ袋40リットル1枚120円というところもあったので、黒石市の2倍だと思ながら、多分室蘭市では今、部長がお話したように排出の抑止ということを徹底してやっているのかなと単純に思ったんであります。ということを見るとですね、私、再三再四述べているとおり、今年で有料化が始まってから十四、五年ですか。行政が進めるものを延々と10年、20年でなくて、その間に検証というものをしてこなかったのが、今、こういう結果になっているのかなと、ちょっと残念に思うのでありますけれども、何かコメントがあればお願いいたします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） ごみ袋の有料化につきましては、ごみ処理経費の2割を市民の皆様にご負担していただくということでございます。それと、努力してごみを出さない方、ごみを多く出す方との不公平感もなくするためには、この有料化も大切だと思っております。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 行政側のその説明、答弁というものはそれもまた理解します。ただ物事によっては、市民サイドでも物事を考えていただきたいということを私は再三述べているわけがあります。これからさらに、物価は高騰していく時代に入っていくのかなということでもありますので、ある意味で行政で場所代とかそういうもので上がっていているものもあるけれども、ものによっては下げていくという必要性を考えていただきたいということを今までも述べているわけがありますので、これから広域化に向かっただごみ袋の価格を検討する場合、社会情勢も加味しながら考えていただきたいということを訴えたいということでもありますので、もう一

度お願いいたします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 社会情勢も鑑みて、価格の決定をしたいということでございますけれども、これからはなるべくごみも減量化していかなければいけないということも大事なことだと思います。この有料化というのは、そのためにもとても大事なことだと私どもは思っておりますので、見解といわれるとこの程度でございます。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） その際は、よろしくお願いいたします。

最後ですけれども、市民文化会館の再開ということで、前の市長時代もですね、市民の声として何度も何度もいろいろな議員の方々が再開はどうなるんだということで質問した経緯が結構あるわけです。今まさに、私が先ほど一般質問で述べたとおり、再開云々どうなるのという諦め感かも分かりませんが、声がなかなか聞こえてきません。いつかは物事に決断をしなければいけないときが来ると思います。高樋市長が造ったものではないのは確かです。ただ、前任者から引き継いでいる懸案事項でありますので、やはりどこかで何かの結果を出さなければいけないということになると思いますので、高樋市長には苦しいでしょうけれども、将来的に財政がもしも物すごく好転した場合、可能性というものはあるかも知れません、ないかも知れません。ということで、もう一回だけ、もし3選出馬ということになるのであれば、4年間にできるかできないか、もし何か答えられるものがあればお願いします。

◎議長（佐々木隆） 市長。

◎市長（高樋憲） この2期8年間、一つ一つの課題を解決するべく市民の皆様の御意見もお聞きし、議会の皆様方の議論も拝聴しながら一つ一つを解決——市役所職員の協力を得ながらですね、一つ一つ解決してきたと考えております。そういう状況の中でのこの市民文化会館であります。先ほど中田議員も一般質問の中でも触れておりましたけれども、今、旧大黒跡地の（仮称）市民サービス施設内に、300名ほど収容のホールを造る計画をしておりました。これが完成した暁にはですね、小・中学校の合唱コンクール、あるいは小規模な市民の方々のいろいろな文化の披露の場として活用していただけると私自身は考えているんですけれども、それを使い始めた段階で、市民文化会館のような——あれは1200名ぐらいですか、収容のホールが市民に本当に必要なのか、その辺をお聞きする場面は当然出てくるんだと思います。当然、財政状況も考えなければいけませんけれども、まずは（仮称）市民サービス施設内に文化を発信できる場所を整備した上で、その後に文化会館の活用というものをしっかり見定めていく必要があるのかなと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 以上で、13番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（佐々木隆） 議場換気のため、暫時休憩いたします。

午前10時57分 休 憩

午前11時10分 開 議

◎議長（佐々木隆） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、5番工藤禎子議員の登壇を求めます。5番工藤禎子議員。

登 壇

◎5番（工藤禎子） 一般質問の最後となりました日本共産党の工藤禎子です。

質問の第1は、（仮称）市民サービス施設についてお尋ねいたします。

市民サービス施設の建設費は、当初外構整備費を含まない16億円でしたが、今回資材上昇率を20%増として22億円程度へと変更となりました。まずは、20%増の考え方の根拠をお示しいただきたいと思います。

次に、ワンストップサービスの導入についてですが、今は、市役所に手続等に来られた方がそれぞれの窓口を回っていたものが、導入されると、プライバシーに配慮しつつ、開放的なテーブルに職員が出向いてきて相談を受けるシステムとなります。

そこで1点目は、県内でも先駆的な取組になると思いますが、なぜワンストップサービスの導入を考えたのかお聞きいたします。

2点目は、ワンストップサービスは、市民をたらい回しにしないというシステムなので、当然市民に対する行政のスタイルが変わるわけですから、職員の対応改革、働き方改革が必要になってくることから、職員研修等を行う計画は考えているのかお聞きいたします。

質問の第2は、まちなかエリアリノベーションプランについてお聞きいたします。

第3回ワークショップに私も参加しました。その概要については、昨日の三上議員とも重複しますので、私は第4回ワークショップの概要と開催時期をお知らせ願いたいと思います。

また、回遊性の向上について、町並み、まち歩きの魅力はどう伝えるのが大変重要だと感じました。ワークショップの最後のまとめの北原先生のお話の中で、まち歩きに、ストリートにストーリーをつけるという提案をされました。私は本当にぴったりだと思いました。この間、日本の道百選あるいは重要伝統的建造物群保存地区、そして様々な県内も含めた賞を取っている町並みですから、歴史と情感、風情やたたずむ町づくりを非常につくりやすい町並みだなどというか、黒石市だなどと改めて私も感じました。そこで、歴史と今をうまく盛り込んだそれぞれ

の店が看板を作って掲げるというようなことで、次の店はどんな店、次はどんな……というふうな形で回遊する人が入りたくなる店構えといたしますか、そういうのが非常に大切だなというふうに私は感じました。それで、その回遊性の向上について何か考えておられましたらお聞きしたいと思います。

第3の質問は、市立図書館についてお伺いします。

7月1日のオープンに向け、6月29日に内覧会の開催も決まりました。

1点目は、今年度の図書館利活用促進事業の特徴的なものをお知らせ願います。

2点目は、司書は、県内11か所の図書館に配置されていますが、このたび、黒石市立図書館には2名の司書が配置されます。御理解に感謝いたします。それでは、図書館司書の役割について、お聞かせ願いたいと思います。

質問の最後は、水田活用の直接支払交付金についてお尋ねいたします。

水田活用の直接支払交付金は、麦、大豆、飼料用作物に10アール当たり3万5000円を交付するもので、多くの農家は、国の減反・転作に協力し、水田を維持しながら経営と地域の生産基盤を維持してきました。ところが、農林水産省は、来年度からあぜや水路がない土地であっても、今後5年で一度も水張りをしない水田を交付対象から除外するなどの方針を決定しました。ずっと国の転作政策に協力してきた転作作物の価格が低く、交付金なしでは成り立たないという声が上がっています。見直しの概要と農業者への影響、対策をどのように考えているのかお聞きして、壇上からの一般質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎議長（佐々木隆） 理事者の答弁を求めます。市長。

◎市長（高樋憲） 工藤禎子議員にお答えいたします。私からは、水田活用の直接支払交付金について、農業者への影響と対策について答弁させていただきます。

水田活用の直接支払交付金に関する制度見直しの主な内容につきましては、飼料用米の複数年契約に係る助成金の減額や、先ほど議員も御指摘していましたけれども、今後5年間に一度も水張りを行われない水田は、交付対象から除外されることとなります。

当市では、これまで生産者のたゆまぬ努力により、国が示した生産数量目標を確実に達成し、長年にわたり高い転作率の下で水田農業に取り組んできましたけれども、このたびの国の制度見直しを受け、生産現場は今後の農業経営に当たって大きな不安を抱えております。耕作放棄地の拡大や離農など、農業と地域の崩壊につながるものと懸念いたしております。

このことから、地域の実情に即した制度の運用や必要な予算の確保を求めるため、当市を含む青森県地方6団体が、今年2月3日に農林水産大臣と本県選出国會議員に対しまして、水田農業の持続的発展に向けた対策の強化に関する要望書を提出いたしました。

また、津軽みらい農業協同組合からも、同月14日に黒石市農業再生協議会に対しまして、生産現場の思いを酌み、国や県に対して強力に働きかけを求める要請書を頂いております。

国は、今後5年間で現場の課題を検証しながら見直しを進めるとしていることから、今後も現場から上がる声を国、県へしっかり届けるとともに、地域の特色を生かした長期的な水田活用の在り方について、生産者団体や関係機関と連携し、当市の水田農業が将来にわたって安定的に発展していけるよう検討してまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 私からは、（仮称）市民サービス施設についてと、まちなかエリアリノベーションプランについてお答えさせていただきます。

まず、（仮称）市民サービス施設についての建設費についてお答えさせていただきます。全国的な資材高騰を受け、商社及びメーカーへの聞き取りを行ったところ、事業当初の令和2年度と比べ、おおむね20%高騰しているとの回答があったことから、これを上昇率とし、採用したものでございます。

次に、ワンストップサービスの導入についてでございます。

現在、当市の窓口運営形態は、市民の皆様が各部署を回り手続を行っていただく形となっておりますが、ワンストップサービスを採用することにより、職員が市民の皆様へ出向くことで負担を軽減できるものとして、（仮称）市民サービス施設の整備に合わせて導入することとしたものでございます。このことにより、市民の皆様に寄り添った窓口運営を図ることで利便性が高まるものと考えてございます。

また、職員研修についてでございますけれども、ワンストップサービスは今までの対応方法と異なる面が多いことから、職員の研修や対応のシミュレーションにつきましては必要なことであると認識してございます。

次に、まちなかエリアリノベーションプランについての、第4回のワークショップの概要についてお答えさせていただきます。

第4回ワークショップは7月中の実施を予定しておりますけれども、具体的な日程は現在調整中でございます。決まり次第、ホームページでお知らせしたいと思います。

また、第4回ワークショップの内容ですが、これまでのワークショップの意見をまとめつつ、（仮称）市民サービス施設建設後も多くの方々に御利用していただくために、今後どのような取組が必要かなどを検討していく予定としてございます。

次に、回遊性の向上についてです。市街地の回遊性の向上は、まちなかエリアリノベーションプランの根幹をなすテーマでございます。まちなかエリアリノベーションプランは、松の湯

交流館から市立図書館までのエリアにおいて、（仮称）市民サービス施設を拠点とし、人の流れを生むとともに、歴史的・文化的資源と調和が保たれた市民に親しまれる町なかとするため、エリア一帯の整備方針を定めるプランでございます。

松の湯交流館や市立図書館、そして（仮称）市民サービス施設など、それぞれが輝くことでおのずとつながりが生まれ、ただのストリートを造るだけでなく、そこにストーリーがあることで、歩きたい、滞在したい場所になっていくものと期待するものでございます。

以上でございます。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 私からは、市立図書館についての御質問にお答えします。

まず、図書館利活用促進事業の中の特徴的な取組についてでございますが、令和4年度重点事業であります図書館利活用促進事業の中から、特徴的な取組を3つ御紹介いたします。

1つ目は、開館時間の特別延長です。これは学生や社会人の利用促進のため、9月末までの期間、開館時間を本来午後6時までであるものを午後7時まで延長するものです。期間終了後はその利用状況を分析し、今後の参考にいたします。

2つ目は、定期配本「百冊文庫」の実施です。これは、昭和40年代から50年代にかけて、黒石公民館が市内の駅や銀行に書棚を設置して無人貸出しを行った百冊文庫という取組をヒントに、市内の学校、公民館、地区センターに数十冊の図書が入った箱を置いて定期的にローテーションさせ、図書館のPRと地域における読書活動推進を図るというものです。

3つ目は、子ども映画会の開催です。これは夏のお楽しみ会、冬のクリスマス会に合わせて、黒石公民館多目的ホールで子供向けアニメなどを上映し、その原作や関連する図書を紹介することで、子供たちの読書への関心を高めるという取組です。このほかにも、各学校への利用案内や図書館体験ツアーなど、利活用促進に向けた取組を行う予定としております。

続いて、司書の役割についての御質問ですが、司書の役割としましては、蔵書の管理やレファレンス対応のほか、読書活動推進のための事業の実施、読書関係団体及び図書ボランティアの育成と支援、他図書館との連携、黒石ほるぷ子ども館の運営支援などを行ってまいります。

また、司書の位置づけとしましては、教育委員会事務局の組織等に関する規則において、図書館方針に関する専門的事項の指導的な立場としております。いずれにしましても、司書は図書館運営の中核を担うものと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（佐々木隆） 再質問を許します。5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） まず、市民サービス施設ですけれども、建設費で改定幅を見ても、ゆとりがある持ち方なんですけれども、ですから、その外装も含めて23億円以内で何とか止められそうだという発言がそこからも出てきていると思うんですけれども、実際、結果的に10%程度ぐらいで済む可能性もあると言えるのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 10%程度で済むのかという御質問でございますけれども、これは社会情勢次第では、さらなる変動の可能性もございます。また、今後も高くなることもあるだろうし安くなることもあるでしょうし、そこは将来の資材の価格の変動を推測することは困難でございますから、現段階では、商社、それからメーカーからの聞き取りによる、おおむね20%増しと想定したものでございます。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 20%以内で済むこともあるだろうし、それ以上になることも全く考えられないわけではないけれども、20%を超すという状況になると、お金の確保も含めて非常に厳しい状態になるのではないかと思いますので、そこは何とか20%以内で、できるだけ下げるといいうろいろな努力というか、そういうのはどうなんでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 当然、市の持ち出しの費用もございますので、材料費とか資材のグレードを下げるとかして、全体の経費が下がるようなことはやっていかなければならないと思っております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） たしか、旧大黒デパートを解体するときに、地下水が出てきて問題になったことがありましたけれども、それは今の建設工事に差し障りはないのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 地下水についてですけれども、当初、旧大黒デパートの地下に水がたまっていたということだったと思いますけれども、あれは地下水ではなく雨水が地下にたまったものと判明しております。よって、今後の建築工事の際には影響はしないものと考えてございます。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） ワンストップサービスについてですけれども、例えば、その課に用事があって来たけれども、市民に内容を聞いたら他の課にもまたぐ場合というのが往々にあると思います。そうなった場合でも、課をまたいで別な職員が市民のところに来ると、来庁者のと

ころに来るといようなシステムになるのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 来庁者の方が移動することなく、1か所で要件を完結できるようにすることがこのワンストップサービスでございます。ですので、議員がおっしゃるとおり、その要件に応じて担当職員が入れ替わり対応することとしてございます。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 例えば、市民サービス施設内だったらまあいいとして、例えばそれが第2庁舎だったり、境松庁舎だったりというふうに、用事が——建物が分散というか、そういう場合はどういうふうに対応しますか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） それはリモートで対応できるものは対応しますし、どうしても境松庁舎に行かないと証明書等が発行できないというものであれば、そこは仕方がない、それはできないのかなと思っておりますけれども、できるだけお客さんに、来庁される市民の方に負担をおかけしないパターンを考えていきたいと思っております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） このワンストップをやっているところで進んでいるところは、例えば各種証明書ありますよね、その発行が一元化できているとかですね——いろいろな届出なども1か所で用事が済むというようなことも考えているのかどうかお願いします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 当市における行政サービスについてでございますけれども、現在、コンビニエンスストアでの代理収納を行っているほか、令和5年3月1日からは、一部コンビニエンスストア、それからスーパーマーケットにおいて、マイナンバーカードを利用した住民票の写しなどの発行も開始する予定となっております。そのため、市の窓口に来庁して各種証明書の発行を求める市民の方々はだんだん減っていくものと想定されますけれども、可能な限り全てを1か所で対応したいと考えてございます。どうしても物理的にできないところは、そこはどうしてもしようがないことではございますけれども、いい方策があれば採用していきたいと考えてございます。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） サービス施設ができるまで2年近く時間はあるので、いろいろと実施しているところへの——もちろん職員の皆も研修とかに行かれると思うんですけれども、そういうことなどやられるつもりというか、それがあるかどうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 先進的にやられている市町村もございますので、その辺は視察なり、いろいろな情報を取り入れていきたいと思っております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 市民をたらい回しにしないで、職員が市民に来ることになりますので、このシステムそのものは非常にいいと思っております。ただ、ちょっと考えてみて危惧されるのは、例えば市民の用事がですね、なかなか解決しない場合もいろいろありますよね。そうすると、ワンストップになっても市民の気持ちはあまり変わらないような、来てもちょっとどうにもならなかったじゃみたいな、だから市の側も相談者が来たら、これを何とか解決してやるぞというような、そういうものがないと、これが成功へといかないのかなというふうにも思ったりするんですけども、どうなんでしょうかお聞きします。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 解決しない事案というのは、相当難しい話だと思われま。単に「証明書が欲しい」とか、「どこどこの施設を使いたいんだけど」、「はい、ここが空いています」というようなことじゃなくて、もっと難しい話だと思うんです。そういうのは個別事案ですので、時間もかかるでしょうし、当然職員は市民に寄り添った相談もさせていただかなければいけないと思っております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） ですから、職員が下に降りてくるわけですよ、1人でも2人でもいいんだけど。そうすると、そこでまた平行線だったりすると、ちょっとお待ちくださいとまた2階に上がって行く。そしてまた、聞いて戻ってくる。それでも、まいねじゃ、用足りねじゃ、課長を出せとか、何とかとなれば、また上って行って課長が下りてくると。極端に言えばね、こういうこともあり得る状況になりはしないんでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 様々な市民の要求はあろうかと思えますけれども、そういうのに一個一個合わせて、ただし下で待たせるとかそういうことじゃなくて、そういった方は個別の相談室なりお部屋に通してですね、そこでじっくりとお話を聞くとか、相談するとかしなきゃいけないのかなというふうには今思っております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） このシステムそのものは私も歓迎するものなんですけれども、ただやはり、職員の対応能力というか、そういうことも同時に、それがちょっと解決するよというふうな私の表現になってしまったんですけども、そういう意味では非常に対応もレベルが求められるというか、スキルを求められるというような状況もあるので、そういう意味では勉強しな

がら、やりがいがある対応になってくるのかなというふうに思っておりますので、市長はこのワンストップサービス導入のですね、決意なり何かありましたらお願いします。

◎議長（佐々木隆） 市長。

◎市長（高樋憲） 先ほど総務部長の話にもありましたけれども、行政の対応、また、行政の位置づけというのは、大きな変革期を迎えているというふうに考えております。また、同時に、市民の要望も幅広くもなってきました。それに対応するべく、今回、ワンストップサービスというものに取り組むわけですが、ただ、先ほど来の御指摘ありますように、今回のこの取組は県内でも初めてだというふうに考えています。まず、全国的にも取り組んでいるところは、まだ何件、何市かしかない状況ですので、まずやってみなければ分からない部分も実際あります。ただしかし、現実に今取り組んでいる先例事例もありますので、その先例事例の中で、改善するべき部分は、私どもも取り入れながらですね、市民に寄り添う市役所というものをさらに強めていきたいというふうに考えておりますし、先ほど来、ちょっと1つの窓口ではなかなか解決できない等々の案件に関しましては、今現在、設計の段階で考えているのは、2階に個室の相談室を設ける予定になっておりましたので、その際には、そちらのほうに移動していただいた上で、しっかり各課の職員が対応する形になっていくというふうに考えています。

いずれにしても、これを実施させていただきました後もですね、議員の皆様方と色々な面で議論をしながらですね、常に改善するべきは改善して、そして市民の皆様方に喜んでいただける市役所機能をさらに充実させるべく努力していきたいと考えていましたのでよろしくお願い申し上げます。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 大きい2番目のほうに移ります。まちなかエリアリノベーションプランの第4回ワークショップを7月中にということですが、これは4回で最後と考えているのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 4回で最後と考えてございます。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうすると、三上議員も言いましたけれども、人数を結構集める形より多くの人の声も聞いてという、いろいろなそういう企画を、今までどおりのメンバーの人たちに来てもらうというだけではなく、やはり積極的にいいものをつくろうという、市民と共につくろうという姿勢が必要だと思っておりますけれども、どのようにお考えでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） これもちょっと答弁させていただいたところだったんですが、子育て世帯とか、そういった団体さんとの意見交換もさせていただいたということをちょっとお話しさせていただきました。そういう団体さんにもまたお声がけしてですね、このワークショップには参加していただくようにやっていきたいと思っております。

また、登録されている方々が30人位いらっしゃるんですけども、第3回的时候は、どうしても都合悪くて参加できなく、半分くらいの15人くらいしか参加できなかったというのがございましたので、できるだけ皆様の御都合のいい日を選ぶというかですね、選んだところで、あの人はいいけれども、この人は駄目だったということもあろうかと思いますが、なるだけ参加できるような手法を取っていききたいと思います。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 回遊性の向上なんですけれども、先般、私もこでんてんに顔を出してきました。手しごとアート展ですけれども、非常に手作り町並みがですね、マッチしているんです。青森市のアスパムでやった手しごと展にも顔を出しましたし、五所川原の——オリンピックでないし、大きい所があるでしょう。

（「オルテンシア」と呼ぶ者あり）

◎5番（工藤禎子） オルテンシア。そこでもやっていたけれども、やはりそれは建物の中で区画を持って、デパートに入っているみたいな感じですよ。ですから、あまり面白くないし、100店舗とか百五、六十店舗とあって、多いんですけども歩いて見るのに疲れるんですよ。もう最後のほうはちょっと座ってしまうというか、ちゃんと見られないというか。ですから、そういう意味では、こでんてんの50前後というのは非常にいいし、黒石市にも合っているというようなことで改めてよさを感じたんです。そして、角々に、出展者、作家さんだけでなく、こでんてんの人たちはお店を盛り上げるためにいろいろと工夫しているんですよ。そういう点では、まちそだて会の人たちも小さいところからこつこつと進めてきているということが非常に分かる町並みになってきていると思うんですよ。ですから、先ほど私が言った看板ですね。各店が自分たちの歴史だとか、こういうふうに使っているのが今あるだとか、そういうのをですね、お店が1つずつ出せるような看板に対する助成——行政の助成ね。そういうことがですね、やはりここの店をどんなあれだろうとか、戸が開けにくいとか、いろいろな感じがあるわけですよ。それをやっぱり看板ですべて私の店はこんなことを受けて、こんな歴史があるんですよというのが戸に貼ってあるというか、そういうのってすごい魅力があると思うんですよ。回遊もしたくなるし、行ってみたいくなるしというね。それに梶さんでしたか、あの人の物語がずっと入ってくるとかも非常に夢がある通りになるなど。それが横町に行ったり、前町

のほうにだんだん広がっていくというようなことになればいいかなと思うので、その看板等が非常に、ちょっとキーポイントになるかなと思うんですけどもどうでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 土曜日、日曜日のこでんてんは私も見させていただきましたけれども、ふだんからこういったにぎわいのある町であればいいのになと思いつながりながら見してきました。大方が、黒石市役所に車を止めて、そこから歩いて町なかを回遊されているということでございました。

それはそれとして、その看板についての助成は、それは今後の課題とさせていただきますけれども、それぞれそのお店の方々の思いで開いているところもありますので、その看板がいいのか、ほかにまた別なものがいいのかというところはそれぞれあると思いますので、それは今後の課題にさせていただきたいと思います。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 次に、3番目に入らせていただきますけれども、市立図書館なんですけれども、やはり事業というのは、何の事業という事業名がはっきりして、やることもはっきりしているわけですけれども、その事業を通して、どんな黒石市の図書館にしていきたいと思っているのか——市民に好かれるだとか、利用しやすいだとか、魅力があるだとか、そういう図書館にしていくということの決意というか、思いというものを、新しい館長になられる教育長にお伺いします。

◎議長（佐々木隆） 教育長。

◎教育長（山内孝行） まだ予定でございますので、教育長の立場としてお答えさせていただきます。

まず、本市の目指すべき図書館像といたしましては、令和元年度に策定した黒石市立図書館整備基本構想・基本計画におきまして、3つの基本理念がございます。1つ目は「学びあう図書館」、それから「憩いと賑わいの図書館」、それから3つ目は「市民の力を育む図書館」を掲げております。これらは、図書館に読書や学習の環境を整えることで中心市街地に人が集まるようになり、生涯学習や図書ボランティアなどを通じて市民同士が関わり合いを持つことで、やがて地域コミュニティーの維持にもつなげていくことを目指しております。

そのための第一歩として、まずは市民に図書館を利用していただくことを目的に、図書館利活用促進事業に取り組むことといたしております。

以上でございます。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 司書の件ですけれども、お二人の方が司書として働くことになったわけで

すけれども、お一人は、そもそも資格を持っていて、ほかの部署でいろいろ仕事をしていました。もう一方は今年になって——今年かな、資格を取ったという2名なんですけれども、いずれにしても経験がですね、やはり実際ちょっと不足をしているということがあると思われまので、いろいろと——先般聞いたときは、平川市の司書さんのところに行ったりして勉強したりとか、研修にも行ったりとかということで、もちろん積まれていると思うんですけれども、司書の役割をさっき聞きましたけれども、今、2人の司書を育てていくというか、そういうので何か考えはあるのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（村上靖） 確かに御指摘のとおり、これからスタートする図書館でございますので、司書としての実績はございませんが、これまでも計画段階から県立図書館の司書の方のアドバイスなども頂いて、御支援を頂いています。今後も、県立図書館の司書の方の御指導も頂きながら、それから県立図書館で研修会なども開催していますので、それなどにも参加させ、これから図書館の運営に携わっていくことで経験を積み、スキルアップが図られていくと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 最後の水田利活用のところですけども、いろいろと危惧されることもあるわけです。先ほど市長も言われましたけれども、例えば交付金なしでは大豆を作付してられないとなった場合に、耕作放棄地が増えることもありはしないか、お願いします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 今回の制度見直しで、やはり一番懸念されるのは耕作放棄地の拡大、これに強い危機感を持ってございます。現場からは、確かに交付金があるからこそ農地を維持してきたという声があります。

市の対応としては、繰り返しになりますが、制度の運用見直し、そして予算の確保を今後も国、県に対して求めていくとともにですね、当市の水田農業の実情に合った形で進めるために、関係機関、そして農業団体で構成する農業生産推進本部——こちら昨年度も開催してございます。今後もその会議の中で、当市に合った水田農業の在り方を求めて取り組んでまいりたいと考えております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 例えば、水張りが事実上できない状態になっているとなると、交付金の対象からももちろん外れるわけなんですけれども、その農地を多く抱えている営農組合とかに存続の影響までは出るかどうか分かりませんが、そういうことも危惧されるのでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 当市の水稲生産組合はですね、主な営農の形態としては、主食用米の生産、そして小麦、このブロックローテーションがメインでございますので、今回の見直しに対しては、生産組合自体にはそんなにはないんですが、やはり生産組合自体の組合員が減少、それから高齢化による組織の弱体化については当市でも危惧して、昨年、その前の年からずっと話し合いを設けています。今後も生産組合の形態について取り組んでまいりたいと思っています。そして、水張りがですね、行われぬ影響については、やはり中山間地、当市でいくとそばの作付辺りが一番影響を受けているのかというふうに考えておりますので、今後もその運用の見直しについて求めていきたいと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうすると、浅瀬石の営農組合とかは既にローテーションを組んでいるので、そう水張り云々と言われても大丈夫だというふうに考えていいんですね。そうすると、個人で多くやっている人とかは結構影響出てくるかなというふうには思うんですけども、ちょっと調べていますでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 今回の水張りがされていない影響を受けるのが約60町歩ほど中山間地にあるわけなんですけど、今回の見直しの中で、国は、畑地化計画を策定して取り組むことに対して交付金を出す制度もございますので、当市の取組の中で畑地化の交付金をもらうような取組を今後考えていきたいと思っております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 具体的には、畑地化計画で議論しているというのはありますでしょうか。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） 今現在はですね、畑地化の部分についてはないんですが、例えばニンニク等の高収益作物であれば、10アール当たりのその交付金幾らというのは決まっていますので、市の全体の取組の中で検討していきたいと考えております。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 米余りもあって、あるいは小麦がなかなか入ってこないということで値上がっている。そこから見ると、やはり米粉も含めたいろいろな普及がですね、必要になってくるかなと。それに今、試験場で米粉用の稲作を研究しているというのを訪問しに行ったときに理事長さんからお聞きしたんですけども、それらの状況はちょっといつ頃世に出るのかもちょっと分からないので、もし知っていたらよろしくお願ひしたいと思っております。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） まず、原材料の価格の影響を受けてですね、生産組合では小麦の面積もちょっと増やしたいという意向も伺っています。それと米粉でございいますが、米粉は今、加工品の原材料として、もう既に流通しているところではありますが、今、議員がおっしゃったそのような取組を当市でも検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（佐々木隆） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） たしか米粉用の稲作も交付金の対象になったんですか。お願いします。

◎議長（佐々木隆） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（中田憲人） はい。なっていると聞いております。

◎議長（佐々木隆） 以上で、5番工藤禎子議員の一般質問を終わります。

◎議長（佐々木隆） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 先ほどの私の一般質問の中で、.....をしていますという部分を取消ししていただき、政治活動をしていますに訂正をしていただきたいことをお願いいたします。

◎議長（佐々木隆） ただいま、中田博文議員から、先ほどの一般質問における発言について、会議規則第64条の規定により、発言の一部を取消したい旨の申出がありました。

お諮りいたします。

中田博文議員からの発言の取消申出を許可することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（佐々木隆） 御異議なしと認めます。

よって、中田博文議員からの発言の取消申出を許可することに決しました。

今後は、十分注意してください。

◎議長（佐々木隆） これで、通告のありました一般質問は、全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後0時02分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

令和4年6月14日

黒石市議会議長 佐々木 隆

黒石市議会議員 後藤 秀憲

黒石市議会議員 北山 一衛